

明治維新とナショナリズム — 幕末の外交と政治変動

サントリー学芸賞受賞

1997年 山川出版社刊 A5上製カバー装 [viii+364+22]頁 定価6605円+税
著者の分析は、とくに次のような点において大いに独自性を発揮する。(1)幕末の政治運動として幕府有司による強兵・集権運動を重視していること。(2)ペリー来航直前から始まる有志の大大名たちの「公議」運動の意義を再評価していること。(3)幕末の徳川将軍家における人材登用と「家」身分制の変化に注目していること。重要なのは、これらの諸点のいずれもが、おのずから幕末・維新时期におけるナショナリズムの進展という大きな歴史的脈絡の中に位置づけられていることである。(野田宜雄氏の1997年度サントリー学芸賞選評より)

ペリー来航

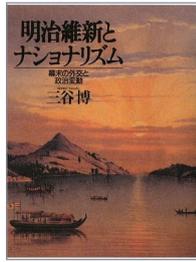
2003年 吉川弘文館(日本歴史叢書)刊 四六判上製カバー装 [16+292+7]頁 定価3100円+税
ペリーの来航により、開国を迫られた幕末日本。緊迫した東アジア情勢の中で、一旦は鎖国に迷い込みながら、それからの脱却を果たした徳川公儀の政権運営を詳述する。鎖国から開国への大転換を解明し、外交政策の新しい解釈を試みた日本開国史の決定版。(版元広告文より)

愛国・革命・民主 — 日本史から世界を考える

2013年 筑摩書房(筑摩選書0072)刊 四六判並製カバー装 349頁 定価1800円+税
明治維新は、世襲身分制を覆す大革命であったにもかかわらず、犠牲者は極めて少なかった。平和的変革の道を探るとき、維新は大いに参考となるに違いない。本書は「愛国」「革命」「民主」の視角から近代日本の経験を抽出、これを用いて東アジアや西洋の経験を理解しようという試み。いま直面する問題を解決するため、歴史に英知を求める。(本書カバーの説明文より)

維新史再考 — 公議・王政から集権・脱身分化へ

2017年 NHK出版(NHK BOOKS 1248)刊 B6判並製カバー装 446頁 定価1700円+税
明治維新は武士という支配階級がみずから消滅する大革命だった。…複雑を極める維新史の全体を通観するために、公議・王政・集権・脱身分化の四課題をめぐる提携と対抗として、安政五年政変から西南内乱までを史料に即してつぶさに描く。…志士や雄藩の活躍物語という伝統的なスタイルを完全に脱し、第一人者が研究の集大成として世に問う、新説・明治維新史。(本書カバーの説明文より)



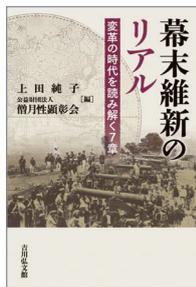
上田純子さんの主な著作

Junko Ueda

上田純子・僧月性顕彰会 [編]

幕末維新のリアル — 変革の時代を読み解く7章

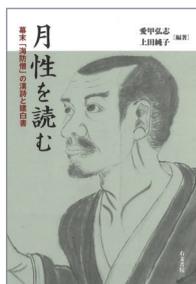
2018年 吉川弘文館刊 四六判並製カバー装 [xi+275]頁 定価2200円+税
はじめに(上田純子) / 幕末維新の、ここが面白い(三谷博) / 積極開国論か、攘夷論か(奈良勝司) / 「攘夷」とは何か(青山忠正) / 洋上はるか彼方のニッポンへ(後藤敦史) / 「尊王」とは何か(前田勉) / 漢詩のなかの月性(愛甲弘志) / 僧月性の交友と交際(上田純子)
欧米列強の動き、対外戦略と国内政争、世界観の相克や思想の対立、月性が体現した知識人交友圏の成立と政治参加—。幕末維新の諸相を、第一線の研究者7名が読み解き、歴史のリアルをよみがえらせる。



愛甲弘志・上田純子 [編著]

月性を読む — 幕末「海防僧」の漢詩と建白書

2023年 右文書院刊 四六判並製カバー装 [xiv+324]頁 定価2750円+税
月性とは誰か—はじめに(上田純子) / I 漢詩選=17題 25首(愛甲弘志解説「時代が動く、詩魂がたぎる」) / II 建白書=封事草稿・内海杞憂・海防意見封事(上田純子解説「方外にあって、天下国家を論ず」)
ローカル知識人、天下国家の変革に挑む。詩才学識を駆使して身分の壁を突破し、欧米列強の開国圧力に抗して、国防体制の大変換を武士だけでなく民衆にも訴えた一人の真宗僧がいた…。その漢詩文原文に、書き下し文・現代語訳を対照し、注釈・鑑賞・解題・コラム・用語解説を付す。中高生にも読める“月性読本”。



好評発売中！ お求めは全国書店にて

この面で紹介した書籍は、柳井市立大島図書館で閲覧・貸出を行っています。